腫瘍内科

【研修目標】

がんはそれ自体がさまざまな症状を起こす疾患であり、またがん治療や緩和治療に伴う副作用は全身に起こりうる。さらにがん患者には高齢者が多く、しばしば複数の併存疾患を有するため、全身を診る内科医としての基本的な知識や手技の習得が重要である。

がん患者は身体面のみならず心理的・社会的など多くの苦痛を持っており、その苦痛を患者から引き出し、可能な限り和らげる緩和医療は、腫瘍内科診療のもう一つの柱である。

Ⅰ　基本的診療技能

１　一般目標

がんは疾患そのものや治療による影響が全身に及ぶものであり、内科医としての基本的な診察、検査、鑑別診断を行い、対処する。また悪い知らせを患者や家族に伝える機会が多いため、医療面接の基本を身につけ、患者や家族の苦悩を理解しながらがん診療に必要な対話ができ、患者の意思を尊重した診療ができる。

２　行動目標

①　患者に起こっている身体的な問題点に適切にアプローチし、指導医とともに主体的な治療方針立案やコンサルテーションを行える。

②　常に患者・家族の立場になって考え、医療チームの一員として適切にふるまうことができる。

③　患者・家族の訴えに耳を傾け、共感できるよう努める。

④　患者・家族が理解できる分かりやすい言葉で話し、理解したことを確認できる。

⑤　患者・家族と心を通わせ、わずかでも癒やしを提供するよう努める。

⑥　医療に関連した患者・家族の経済的・社会的負担に配慮できる。

⑦　診断と病態に基づいた診療方針を説明できる。

⑧　終末期患者の希望に合わせた療養場所について相談できる。

⑨　がん医療チームを構成するメンバーの役割を正しく理解し、効果的なチーム医療のあり方を実践できる。

Ⅱ　医療倫理、インフォームド・コンセント

１　一般目標

がん診療にあたって前提となる医療倫理を理解する。

２　行動目標

①　医の倫理４原則（自律尊重・無危害・善行・公正）を理解し、行動できる。

②　病名・病状・予後など患者にとって悪い情報の伝え方を実行できる。

③　プライバシーに配慮した行動ができる。

Ⅲ　がん薬物療法

１　一般目標

標準的治療の概念について理解できる。がん薬物療法の原理、適応、限界、副作用を理解する。

２　行動目標

①　がん薬物療法の目的について説明できる。
②　代表的ながん治療薬について、種類、作用機序、適応となる代表的疾患、薬剤投与法、副作用を理解できる。
③　制吐治療など、がん薬物療法の最低限の有害事象対策を行える。

Ⅳ　緩和医療
1　一般目標
がん治療における緩和医療のあり方（対象・時期・目的）について概説できる。
2　行動目標
①　「早期からの緩和ケア」の重要性を理解できる
②　がん疼痛を正しく評価し、有効な治療を行える。
③　オピオイド薬を含めた鎮痛薬の種類、特徴、副作用に関する正しい知識を有し、提
案できる。
④　疼痛以外の身体症状について病態に応じた対応を提案できる。
⑤　患者の苦痛を total pain としてとらえ、心理的、社会的側面に配慮できる。
⑥　がん患者にみられる精神症状（せん妄・抑うつなど）を理解し治療できる。
⑦　終末期患者の療養場所としての在宅や緩和ケア病棟などの特徴を理解できる。

Ⅴ　EBM と臨床試験
1　一般目標
新しい診断・治療法の確立に向けての臨床試験および EBM の概念と重要性を理解する。
2　行動目標
①　EBM について理解できる。
②　エビデンスのレベルについて概説でき、エビデンスのある医療情報を検索することができる。
③　日常診療と臨床試験の違いを理解でき、エビデンスを有効に利用できる。

【研修方略】
Ⅰ　方法
（1）指導医とともに患者を受け持つ。
（2）診療録を毎日記載し、いつでも患者の状態を簡潔に指導医に報告・相談できる。
（3）指導医や看護師、薬剤師、管理栄養士、公認心理士らと議論し、治療内容を検討する。
（4）指導医とともに患者や家族と相談し、合意の上治療方針を決定し、実行する。
（5）治療による副作用を予防、あるいは早期に発見し、より苦痛の少ない治療を行う。
（6）患者の訴えや看護師等からの情報をもとに適切な症状緩和治療を行う。
（7）重要なエビデンスとその基になった臨床試験を理解し、たえず up to date な情報を入手して日常の診療に応用する。

Ⅱ　週間スケジュール
（1）平日は毎日午前８時より、診療科医師全員で入院患者カンファレンス
（2）火曜日　午後 3 時 00 分～午後 3 時 30 分　緩和ケアチームカンファレンス

（３）第２・４水曜日　午後 4 時 20 分～午後 6 時 00 分　抄読会
研修医はローテート中に少なくとも１回、抄読会での発表を行う。

【研修計画責任者および研修指導医】
研修計画責任者
腫瘍内科　部長　　有岡 仁
（日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本緩和医療学会認定医）
研修指導医
腫瘍内科　医師 柳原 武史
（日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医）
腫瘍内科　医師 湯川 裕子
（日本内科学会総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本緩和医療学会認定医）

【評価】
I　上記行動目標に対する到達度を項目別に評価する。